

# 令和4年度 平和推進事業報告書



令和4年8月5日(金)～6日(土)

愛知県海部郡飛島村

# 平和推進の村宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いです。  
しかし、今日の世界情勢にみられるように、膨大な核兵器の存在が、世界の平和と人類の生存に大きな不安をもたらしています。

こうした状況のもとで、我が国は世界唯一の被爆国として、核兵器の廃絶を、世界に訴え続けなければなりません。

飛島村は、ここに、平和と国際協調を理念とする平和行政を推進し、＜安全で明るく心豊かな住みよい村＞の実現を念願して、「平和推進の村」を宣言します。

平成8年6月21日宣言

愛知県 飛島村

## 事業の経過

- |                  |                                                                   |
|------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 平成7年7月31日<br>8月  | 戦後50周年事業として飛島中学校の生徒6名を広島市へ派遣<br>故佐野村長が津島市と海部郡の中学校22校に被爆した広島の瓦を寄贈  |
| 平成8年6月21日        | 「平和推進の村」宣言                                                        |
| 平成9年7月下旬         | 平和推進視察事業として以後、毎年実施<br>飛島中学校生徒8名・引率3名（教諭2名、事務局1名）の計11名を1泊2日で広島市へ派遣 |
| 平成13年8月5日、6日     | 平和祈念式典（8月6日）にあわせて派遣日の変更                                           |
| 平成18年            | 事業名を平和推進事業とし、派遣人数を生徒6名、引率2名の計8名に変更                                |
| 平成19年～<br>平成30年～ | 報告会を実施（海外派遣事業との合同報告会）<br>飛島学園文化祭にて、平和推進事業単独の報告会を実施                |

令和4年度

# 広島派遣

飛島村平和推進事業

## 事業のねらい

近年、戦争を知らない世代が人口の大半を占めるようになり、平和に慣れ、感謝する気持ちはおろか、真に平和を願うという思いが薄らいできている。人々を不幸に陥れる戦争を再び繰り返さないためにも、今日の平和が多く犠牲の上に成り立っていることを見つめ直す必要がある。

この事業を通し、平和への願いをいっそう強め、今生きていることに感謝するとともに、学んだことを後世へ語り継ぐことが重要であり、平和に貢献できる人づくりを目指す。

引率教諭

伊藤 千絵

9年

加藤 寛翔

久野 一真

栗本 朔弥

瀧本 紗由季

立松 佳

中西 海人



7月19日(火)

## 村長表敬訪問

広島出発を前に、派遣生徒は加藤村長を訪れました。学園全体で作成した千羽鶴を披露し、生徒たちは派遣への抱負を述べました。加藤村長から平和推進への取り組みや激励の言葉をいただき、派遣生徒一同は決意を新たにしていました。

加藤 寛翔

原爆の恐ろしさを肌で感じ、周りに伝えていきたい。

久野 一真

平和について発信していきたい。

栗本 朔弥

核のない平和にするために、自分の考えを深めたい。

瀧本 紗由季

平和について、何か出来ることを考えていきたい。

立松 佳

現場を実際に見たり、感じたりして、自分の考えを深めたい。

中西 海人

広島のような酷いことを二度と起こらないように考えていきたい。



7月19日(火)

## 事前研修会

生涯教育課

主事 近藤 宏徳

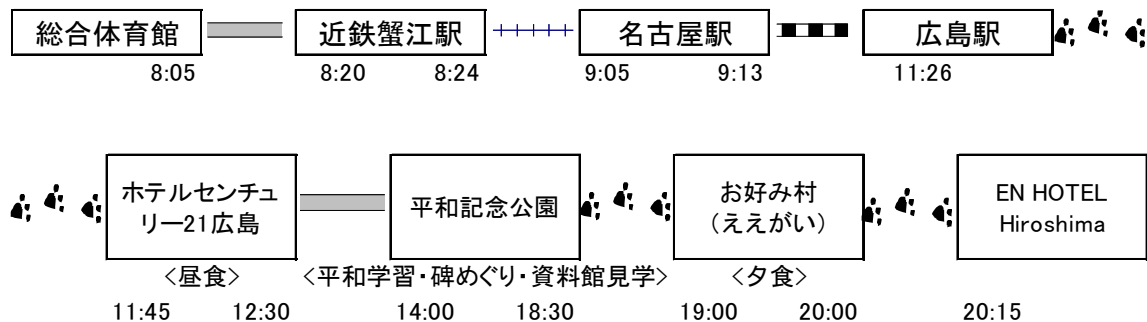
飛島学園

教諭 伊藤 千絵

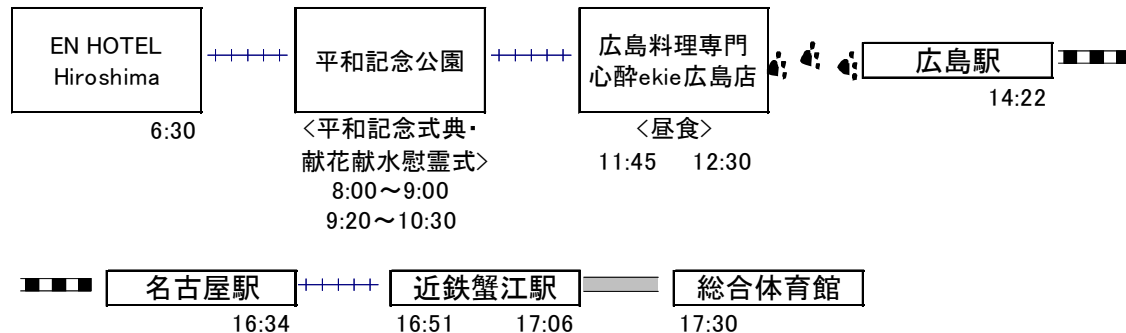
参加生徒 6名

広島へ中学生を派遣する意味、飛島村の平和推進事業への取り組みの経緯や二日間の行程について説明を受けました。その中で、世界平和に貢献できる人づくりにかける村の方々の思いを受けとめた参加者たちの表情には、事前学習にしっかりと取り組み、多くのことを実習で学ぼうという決意がみなぎっていました。

8月5日（金）



8月6日（土）



8月5日（金）

出発式

教育長あいさつ  
生徒代表あいさつ



戦争・平和について学び、被爆者援護会の方々の講話や献花献水慰霊式に参加するなど、密度の濃い日程になっている。実際に広島で体験し、各自の学習テーマについて学んできてほしい。

教育長 田宮 知行

広島で、戦争や平和について学ぶ機会をくださりありがとうございます。現地で語り部の方の話や資料等を見聞きし、原爆の恐ろしさや日本に起きた悲しい事実について、しっかり学び、平和とは何かを学んできたいです。

瀧本 紗由季

## 平和記念公園内碑めぐり



語り部

広島被爆者援護会

小野 久仁子さん

## 平和の鐘

広島悲願に立ち、すべての核兵器と戦争のない、まことの平和共存の世界の達成をめざし、建設されたものです。

鐘の表面には「世界は一つ」を象徴する、国境のない世界地図が彫られ、撞座（つきざ）には、原水爆禁止をこめて原子力マークが入れています。このマークをつくことで、核兵器廃絶の世界を誓います。



# 原爆ドーム

原爆ドームは、世界で初めて使用された核兵器によって被爆した建物です。

もともとは、広島県産業奨励館という建物で、内務省や広島県の木材株式会社等の事務所として使用されていました。



# 原爆死没者慰霊碑

中央には原爆死没者名簿を納めた石棺があります。現在 123 冊ある名簿のうち 1 冊は「原爆被災者氏名不明者多数」とかかれた白紙の名簿で、多くの名前もわからない死没者の方のためのものです。

また、石棺の正面には、「安らかに眠ってください 過ちは繰返させぬから」と刻まれています。

真ん中に見える平和の灯は、地球上から核兵器がなくなるまで、常に燃やされています。平和記念式典が行われる 8 月 6 日は灯が大きくなります。



# 韓国人原爆犠牲者慰霊碑

この慰霊碑は、原爆投下により亡くなった韓国人（朝鮮人）約 2 万人の犠牲者を供養するために建てられました。

亀をかたどった台座の上に碑柱が建ち、その上には双竜を刻んだ冠が載せられています。これは、死者の霊は亀の背中に乗って登っていくという故事に由来しているそうです。



# 原爆の子の像

モデルとなった佐々木禎子さんは、白内障を患い、闘病生活の中で、病気が治ると信じて薬包紙などで鶴を折り続けました。

佐々木禎子さんをはじめ、原爆で亡くなった多くの子どもの霊を慰め、世界に平和を呼び掛けることを目的として建立されました。

像の真下の石碑には「これはぼくらの叫びです これはわたしたちの祈りです 世界に平和をきずくための」と刻まれています。





# 平和学習

語り部

広島被爆者援護会

土井 光子さん

原爆が投下された当時、土井さんのお母さんが体験されたことをお話いただきました。原爆が投下された直後、歩いて自宅へ戻る時のことです。

…たくさんの人が亡くなりました。人間が、人間らしく死ねなかったのです。

地べたに死体がいっぱいだったのです。母は着物を着ていましたので、裾がひらひらします。瀕死の重傷でありながら、藁をもつかみたい。誰かに助けを求めたい。そんな気持ちが着物の裾をつかむのです。

母は「ごめんなさい。何にも出来なくて。私も逃げているんです。ごめんなさい。」と言いながら、「お水をください。」「助けてください。」という声を、「お念仏だ」と聞き流して走ったそうです。そう思わないと心が壊れそうで、足が前に進まなかった。なんて自己中心的と思われるでしょうが、子どもを守り、自分を守り生きていかなければならなかった状況を、今なら理解できます。…

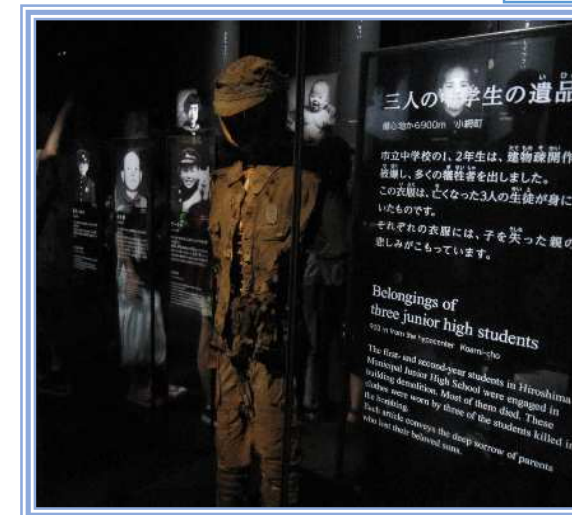
原爆が投下された時のことを、体験談を語り継がれている方の言葉で聞くことで一層当時の様子が想像できました。

# 原爆資料館見学



2016年に現職アメリカ大統領として初めて広島平和記念式典に参列したバラク・オバマ氏が作成した2つの折り鶴が展示されています。

メッセージには「私たちは戦争の苦しみを経験しました。ともに、平和を広め核兵器のない世界を追及する勇気を持ちましょう。」と書かれています。



建物疎開作業現場では多くの犠牲者が出たそうです。

被爆した当時 12～14 歳の3名の中学生の制服を一体にして展示されていました。

とてもぼろぼろで原爆の威力やその場の壮絶さを感じました。

8月6日(土)

# 平和記念式典

## 平和への誓い

あなたにとって、大切な人は誰ですか。  
家族、友達、先生。  
私たちには、大切な人がたくさんいます。  
大切な人と一緒に過ごす。笑い合う。  
そんな当たり前の日常はとても幸せです。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。  
道に転がる死体。  
死体で埋め尽くされた川。  
「水をくれ。」「水をください。」という声。  
大切な人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や未来が突然奪われました。

あれから77年経ちました。  
今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。  
戦争は、昔のことではないのです。

過去に起こったことを変えることはできません。  
しかし、未来は創ることができます。  
悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、  
平和な広島を創ってくれました。

今度は私たちの番です。  
被爆者の声を聞き、思いを想像すること。  
その思いをたくさんの人に伝えること。  
そして、自分の周りの人も大切にし、お互いに助け合うこと。  
世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、  
私たちは、行動していくことを誓います。

令和4年(2022年)8月6日

こども代表  
広島市立幟町小学校 6年 バルバラ・アレックス  
広島市立中島小学校 6年 山崎 鈴

## 献花・献水慰霊式



## 生徒代表平和への誓い

私たちの世代は、戦争を体験しておらずよく知りません。しかし、学ぶことはできます。学んだことを友人や家族などに伝えていきたいです。

加藤 寛翔



## 献花・献水慰霊式

## 平和への誓い



77年前の8月6日、放射能に汚染された広島は生物不毛の地になり、人々は虚脱状態の中で不安と闘っていました。が、その数年後一面に青々と草が生え始めたのを見て、生きることが出来るという喜びと希望が持てたのでした。たとえどんな小さな戦争であっても、それがエスカレートすることで人類の破滅になります。そしてそれが核戦争につながるとしたら、どんな名分があろうとも戦争は絶対にやってはいけません。

原爆の体験や戦争を体験された人たちが少なくなった今日、風化を防ぎ強い平和の意識を持つ社会を目指して微力ながら力を尽くすことを誓います。

広島被爆者援護会 平和学習講師 土井 光子



## 解散式



## 教育長あいさつ

2日間、式典や講話、資料館の見学など、色々なことを体験し、感じたことがあると思う。ぜひその体験や戦争、平和について各自解釈し伝えてほしい。9年生にとってこの体験は、生き方や進路に色々な影響を及ぼすかもしれないが、前に進める2日間になったと思う。

教育長 田宮 知行

## 生徒代表お礼の言葉

1日目は被爆者援護会の方の話を聞きました。話を聞き、原爆の悲惨さ等を身近に知ることができ、原爆について考えるきっかけになりました。2日目は平和式典に参加しました。この2日間で学んだことを生かすためにも友人や家族、先生などに伝えていきたいです。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

栗本 朔弥

# テーマ：平和な世の中にするために

9年 A組 名前 加藤 寛翔



## タイトル：原爆の悲惨さ

僕が原爆ドームを見て、まず感じたことは「怖い」です。なぜそう感じたのかというと、あんな大きな建物がこんなに溶けてしまうので、人間はどうなってしまうのだろうと思ったからです。



## タイトル：原爆の被害者たち

この写真は原爆の被害者の持ち物です。自分と同じような年齢の子どもたちの命が一瞬にして奪われてしまうことや原爆の破壊力をこの写真を通して実感することができました。



## タイトル：被爆者の思い

実際に被爆者の話を聞き、今のこの平和な世の中で生きる私たちには考えられない爆風や放射線で、体が焼け、苦しんでいる人がいた等、原爆の想像を超える恐ろしさを肌で感じる事ができる貴重な時間になりました。

## 感想

僕は今回、原爆の恐ろしさを肌で感じる事ができました。最初は教科書で学んだことが全てだと思っていましたが、現地で語り部の方の話を聞いて、まだ知らなかった戦争の現実を知ることができました。そして、原爆ドームは写真で見るよりも実際に見た方が悲惨さが伝わるように、原爆の被害や影響も、当事者の人に聞かない限り伝わりません。ですから、原爆の恐ろしさについて学んで終わるのではなく、他の知らない人に伝えていき、平和に少しでも尽力したいです。

# テーマ：夢のような現実

9年 A組 名前 久野 一真

タイトル：燃える町

強烈な光を発生して原爆が爆発した瞬間、一瞬にして多くの命が失われ、町は火の海になりました。数秒前まではいつも通りの日常だったのが、たった一瞬で地獄の様な景色へと変わってしまったのです。



タイトル：救護所

救護所は橋のたもとや学校などに設けられ、すぐに被災者でいっぱいになりました。しかし、医薬品も物資もわずかしかなかったため、水を求めて呻く負傷者たちは、十分な治療を受けられないまま次々と息を引き取りました。



タイトル：黒い爪

これは被爆した際、窓から出していた左手の中指と薬指の指先に火がつき火傷した後から生えてきたものです。この爪には正常にはないはずの血管が通っていたそうです。この爪は亡くなるまで生え続けました。原爆は体の構造さえ変えてしまうのです。



## 感想

僕は今まで戦争などに関してあまり興味がなく今回のことが無ければずっと考えなかったと思います。実際に、講話を聞いたり、写真や絵を見るなどしている時、感じたことは、もうこれ以上見たくないといったことでした。あまりに痛々しく、これまでもこれからも考えたくなる様な内容でした。でも、過去にあんな悲劇があったという事を目をそらさず受け止め、多くの人に伝えていくことで、原爆におびえることが無いほど平和な世界を作っていくことが僕たちのすべきことだと感じました。そのことを心に刻み、これから生活したいこうと思います。

# テーマ：核兵器のない平和と現実

9 年 A 組 栗本 朔弥



タイトル：核の被害

8月6日8時15分、一瞬にして7万人ほどの人が亡くなった。放射線などの被害によって、結局14万人もの方が亡くなった。それほどの武器があるということだ。



タイトル：土井さんが見たもの

助けて…といいながら、地面で息絶えた人、燃え尽きた人、溺れて亡くなった人等、残酷なものであった。この憎しみは、今、消えつつある。



タイトル：核なき平和へ

平和の鐘を見ると国境が書かれていない。また、平和公園にある平和の灯は核兵器がなくなったときに消える。まだ、実現できそうにないというのが現状だ。

## 感想

広島での被害等の話を聞いてとてもショックを受けました。戦争はしてはいけないと心から思いました。正直今は核兵器をなくすのは難しい現状ですが、資料館で見た写真を見ると、なくすべきという感情と、持つべきという感情で心に矛盾が生じました。しかし、二度と核が使われてはいけません。強く伝え続け、少しでも行動をしていきたいと思いました。平和な世界になることを願います。

# テーマ：原子爆弾の威力と強さ

9年 A組 名前 瀧本 紗由季



タイトル：奇跡的に残った原爆ドーム

原子爆弾は一番遠くまで届きやすい地上から600mで爆発しました。爆発した原子爆弾は、1秒で30万度になり、まるで太陽のようでした。原爆ドームの前の名前は産業奨励館といい、レンガでできており上からの衝撃に強く、少し遠くで爆発したため形が残った奇跡の遺産です。



タイトル：跡を残す熱線や放射線

爆発で大量の放射線が発生して人体に影響を与えています。ガンマ線が30mのコンクリートを通り抜け、中にいる人達を50%即死させると言われています。熱線は石炭を一瞬のうちに400t燃やしたのと同じくらいのエネルギーを放ち、鉄が溶ける2.6倍の熱線が3秒ほど続きました。写真は、熱線を浴びた人の影が跡となって残っています。



タイトル：耐えきれないほどの爆風

爆発して一瞬のうちにすさまじい程の熱量が放出されてあらゆるものが蒸発したため、空気が膨れ上がって何十万気圧になり、激しい爆発が起きました。爆心地では1㎡あたり20~30tの風圧だったそうです。爆風は一旦通り過ぎても戻ってきたので、被害が大きくなりました。

## 感想

授業や事前学習で学んだことでも、それは原子爆弾が起こしたほんの一部でしかなく、それよりもっと悲惨な状態になっていたこと、被爆した人たちやその人たちに繋がる家族等の心配、その人たちの後遺症での苦しみや悲しみを深くまで知ることができました。

原子爆弾が爆発してしまってから今なお苦しんでいる人がいる中、語り部さん等の原爆の恐ろしさを語り継いでいく人たちや実際に被爆をした人たちがいなくなってしまうことはとても大きな問題だと思います。唯一の被爆国の日本がすべきことは、戦争や原爆のことを知り、それらを他の国にも語っていくことが大事だと思います。

今のウクライナとロシアの戦争も慣れてしまっているととても大変なことになると思います。この戦争は普通ではない、危険なことなんだと考え、平和に対してもう一度ありがたみを感じていき、それを後世まで語り継いでいきたいです。とてもいい機会でした。

# テーマ：広島が世界に与える影響

9年 A組 名前 立松 佳

タイトル：平和記念式典



こちらは平和記念式典の会場の様子です。1947年に第1回が開催されたこの式典には、毎年多くの人を訪れます。「ノーモアヒロシマ」という言葉もあるように、再び原爆の被害を出させまいと世界に平和を訴えかけています。

タイトル：平和の鐘



こちらは同会場内にある「平和の鐘」と呼ばれるものです。この鐘には世界地図が描かれていますが、あるものがありません。国境です。ここには、平和の尊さ、大切さを伝えるために、国の違い、すなわち国境は必要ないというメッセージが込められています。

タイトル：核廃絶への動き



核の廃絶に向けて、世界では様々な取り組みが行われています。2008年に発足した「グローバル・ゼロ」は2030年までに核兵器を廃絶する道筋を4段階で示しました。また、その他の国際的な組織でも核廃絶に向けた様々な目標が提案されています。

## 感想

建造物の一つにしる、ただ記念だから作ったという訳ではなくきちんと意味があることを知りました。

「百聞は一見に如かず」という言葉があるように、この原爆投下という語り継がれるほどの惨劇でさえも、実際の被害や原爆の威力は想像しがたいものであって、恐らく本当の恐ろしさを自分は今も理解できていないと思いました。自分は少なくともこのような惨劇は目にはしたくないと思いました。

# テーマ：原爆の爪痕

9 年 A 組 名前 中西 海人



タイトル：原爆

今から 77 年前、ヒロシマに原子爆弾が投下され、広島は火の海になり、多くの人が、一瞬にして死にました。

長崎にも投下されました。今の世界には、多くの核があり、世界がいつ消えるかわかりません。



タイトル：原爆の川

原爆が落ちた後、川には水があるため、川に入ろうと色々な人が入りました。多くの人が川に入り、それを見た人はさぞかしつらかったでしょう。

さらに干潮・満潮によって人の死体が川や海へ行ったり来たりしていたそうです。



タイトル：水を求める人

水を求めて水道まで人が並んでいます。ガラスや熱線で傷ついた体を洗うため人が並んでいます。痛みをこらえながら並び、水を求めていた痛みは、自分わかりません。

## 感想

原爆について知っているつもりでも、実は何も知らないなと思いました。

被爆者二世、三世の人も、苦しみ続けています。原爆をこの世からなくさないといけないと思いました。

# 原爆投下に関する資料編

## 原爆投下前後の動き

1945年

- 7月16日 — 人類史上最初の核爆発実験実施（アメリカ・ニューメキシコ州アラモゴード）
- 16日 — アメリカ重巡洋艦インディアナポリス号、マリアナ諸島テニアン島へ向けてサンフランシスコ出航（ハワイ経由）積み荷は広島へ投下予定の原子爆弾のための核分裂物質ウラン 235 と爆弾の一部分（その他、ウラン 235 や爆弾の部品なども幾つかに分けて空輸）
- 25日 — 原爆投下命令（アメリカ陸軍参謀本部からグアム島の戦略航空隊司令官あて）
- 26日 — 米英中三カ国名で、日本の無条件降伏を求める「ポツダム宣言」を発表
- 28日 — 日本政府は、ポツダム宣言を「黙殺する」と発表
  
- 8月 2日 — アメリカ陸軍第20航空軍野戦命令13号（8月6日 日本攻撃、第1目標広島市街地工業地域）
  
- 8月 5日 21:20 警戒警報発令  
21:27 空襲警報発令  
23:55 空襲警報解除
  
- 6日 0:25 空襲警報発令  
0:37 爆撃目的都市の天候を確認するため、テニアン島から偵察機3機が広島、小倉、長崎各都市へ向けて出発（日本時間）  
1:45 B29 爆撃機「エノラ・ゲイ」号、原子爆弾を搭載してテニアン島を出発（日本時間）この爆撃機には、爆撃の破壊力の測定機材を投下する1機と写真撮影のための1機が同伴  
2:10 空襲警報解除  
2:15 警戒警報解除  
7:09 警戒警報発令（1機のB29（原爆投下のための天候観測機）が広島市上空に侵入）  
7:31 警戒警報解除  
8:15 警報が市民に知らされる前に、原爆が投下され、さく裂
- 9日 11:02 長崎に原子爆弾（プルトニウム）を投下
- 10日 — 日本政府が「新型爆弾は国際法違反」と抗議声明
- 14日 — 日本政府、ポツダム宣言を受諾し、連合国に無条件降伏
- 15日 — 日本政府、国民に戦争終結の詔書放送

# 投下目標にされた都市

## 1945年のアメリカ側の動き

- 4月 — 原爆投下を研究する地域を次のとおり選定  
東京湾、川崎、横浜、名古屋、大阪、神戸、京都、広島、呉、八幡、小倉、下関、山口、熊本、福岡、長崎、佐世保
- 5月 — 投下目標を京都、広島、新潟に絞る
- 6月 — 投下目標から京都を除き、小倉、広島、新潟に目標を設定
- 7月25日 広島、小倉、新潟、長崎に決定
- 31日 広島を最優先目標に設定
- 8月 1日 目標から新潟を除外
- 2日 攻撃日を6日、投下目標を広島、小倉、長崎とする最終命令
- 6日 広島に原爆投下
- 9日 長崎に原爆投下

---

## 広島に投下された理由

戦争末期、日本の主要都市はアメリカ軍の空襲でほとんど壊滅状態でした。そのなかで、原爆投下目標として広島が選ばれたのは、次のような理由からと推測されます。

- ①都市の大きさや地形が、原爆の破壊能力を実験するのに適当であり、同時に原爆投下後の破壊効果を確認しやすかったこと。
- ②軍隊、軍事施設、軍需工場などが集中し、しかも無傷であったこと。

---

## 原爆投下までの経路

広島へ原爆を落とすために、テニアン島から B29 爆撃機「エノラ・ゲイ」号が飛び立ちました。テニアン島から広島までは、約2,740kmで片道6時間30分の飛行でした。

## ——編集後記——

---

戦後 77 年目を迎えた今年、平和推進事業も 28 年目を迎えました。

本事業は、飛島村の将来を担う「人材育成」のため、生涯学習の一環として、学校以外の教育の場でこれからの生き方を考え、平和の願いを後世に伝えていく事が大きなねらいとなっています。

現地広島において、幼少期に実際に被爆された方など、お二人の貴重なお話を伺った後、平和記念資料館の見学や平和記念式典へ参加し、派遣された中学生にとって非常に意義ある研修となったと思います。

その内容については、それぞれの生徒が見て・聞いて・感じて・考えたことを本書に綴っています。

この事業が生かされ、今後、より平和な世界になるようお願い、結びとさせていただきます。

発行日：令和４年 11 月

令和４年度 平和推進事業報告書

●発行／飛島村教育委員会

●発行部数／200 部